

神奈川県・東京都におけるミズニラ生育地に影響を与える人為的管理について

Artificial management affecting the habitat of *Isoetes japonica* in a  
Kanagawa Pref and Tokyo Met

○相澤 直 (明治大・院・農)・倉本 宣 (明治大・農)

\*Aizawa Naoki<sup>1</sup>, Kuramoto Noboru<sup>2</sup> <sup>1</sup>Agricultural, Meiji Graduate school,  
<sup>2</sup>Agricultural, Meiji University  
kamonosuke.jp@gmail.com

ミズニラ (*Isoetes japonica*) は、日本国内では本州・四国の低地に分布し、湿地、池沼周辺、水田に生育する沈水または抽水性の水生シダ植物である。環境省レッドデータブックでは準絶滅危惧種に位置付けられ、生育条件の変化によっては絶滅の恐れがある種とされているが、その研究は分類に関するものなど一部を除きあまり行われておらず、生態や保全に関して、自生地において詳細な調査研究が成された例は少ない。

本研究では、上記のように絶滅が危惧されているにもかかわらず、生態や保全についての知見が乏しい、ミズニラに注目してその生育地維持を目標とし、本種がどのような条件下で生育できるのかを明らかにすることを目的に、自生地において調査を行った。

調査は、町田市北部に位置する図師小野路歴史環境保全地域内休耕田、厚木市北部に位置するあつぎこともの森公園内水田及び隣接する谷戸内の湿地、横浜市北部に位置する四季の森公園内ショウブ園の計 4 か所を対象とし行った。

対象地には、事前の目視調査によりミズニラの生育が確認された地点に 1m×1m の調査枠をベルトランセクト法により各 10 か所設置し、それぞれの枠内で土壌硬度やリター量、土壌含水率、相対光量子束密度、全天空隙率、植生 (全出現種、種別植被率、群落高) など、ミズニラに影響を及ぼすと考えられる環境要因についての調査を行った。また、これらに加えて管理者への聞き取りや文献調査等から、それぞれの調査地の管理方針やその現状についても調査し、環境要因との関連性について検討した。

今後はこれらの調査結果を基に、それぞれの場所の管理方針に合った、ミズニラ生育地の持続可能な維持方法について提案していきたい。

キーワード：ミズニラ、生育地、管理、水田、ショウブ園